

# MITOYA 2016 夏物語

平成28年度全国高等学校総合体育大会 充実のステージ

美以咲け 君の笑顔と努力の華

2016 情熱疾走 中国総体



チーム三高



**MITOYA**

島根三刀屋  
県立高校

# 蒼雲

学校だより  
第110号

女子ソフトボール

(7/31)8/1、尾道市御調ソフトボール球場

## 初戦突破 — 24年ぶりの歓喜

### たかが一勝 されど一勝

1回戦の文徳高校との対戦では、序盤に巧みな走塁を交えて1点ずつ積み上げ3得点。しかし、4回以降は相手投手の好投に追加点を奪えず、逆に6回裏に同点に追いつかれる嫌な展開。7回表に2点を加えたものの、その裏には2アウト満塁、一打逆転サヨナ

1回戦の文徳高校との対戦では、序盤に巧みな走塁を交えて1点ずつ積み上げ3得点。しかし、4回以降は相手投手の好投に追加点を奪えず、逆に6回裏に同点に追いつかれる嫌な展開。7回表に2点を加えたものの、その裏には2アウト満塁、一打逆転サヨナ

出高校に敗れはしたが、どんなピンチにもキャプテン青木真衣子(3年)を中心に寄り合い、声をかけ合い、笑顔を買き通した。長岡監督は、3月の全国選抜大会では男子ベスト16に副顧問で貢献し、今大会では女子を率いて「神つてる」シーズンとなった。

ラのピンチを迎えた。最後はエース永見日奈子さん(3年)の渾身の1球を打ち返したライナー性の打球は、ショートグラブに吸い込まれるように収まり、実に24年ぶりのインターハイ一勝を手にした。ベンチも保護者を中心とした応援席も涙と笑顔で喜びを分かち合った。24年間追い続けた一勝、たかが一勝、されど一勝に沸く歓喜となった。

島根県勢として初出場を果たした昨年に続き、門脇宥紀菜さん(3年)が「女子単独演武」に出場した。全国の壁は厚く予選突破はならなかったが、自己最高得点を更新する納得の演武を披露した。

### 少林寺拳法

(7/29、岡山県美作市)



応援に駆け付けた恩田校長と

### ボート競技の大会運営をお手伝いしました

〈開会式では〉  
 歓迎演奏 by 吹奏楽部  
 歓迎挨拶 by 小林昂貴さん  
 司会進行 by 柿木瑛人さん

7/28



歓迎の挨拶に立つ小林生徒会長

全国高校総体(インターハイ)ボート競技の開会式が7月28日、三刀屋文化体育館アスパルで行われた。体育館入り口では本校生徒会執行部が元氣な挨拶で受付業務に奔走し、開会に先立って午後4時から吹奏楽部が「斐伊川に流るるクシナダ姫の涙」(作曲/樽屋雅徳)を演奏し、全国からの選手・監督を地域色を生かした曲で歓迎した。開会式では生徒会執行部の柿木瑛人さん(3年)が司会進行の大役を堂々とこなし、

雲南市・奥出雲町実行委員会会長(速水雄一雲南市長)等のあいさつに続き、生徒会長の小林昂貴さん(3年)が地元生徒を代表して歓迎の言葉を述べた。

### 柔道競技では

出雲市のカメラリナーでの柔道競技の開催にあたっては、本校の柔道部員3名も大会本番前から7泊8日のハードな日程で競技運営をサポートした(本当にお疲れ様でした)。

# 標高200mの湖面を72艇が全166レースで 情熱疾漕

男子舵手つきクォドルプル決勝でゴール直前の僅差の勝負を制したのは手前の黒沢尻工業高校(8/1)。



ボート界の深イ言葉

## 「一艇ありて一人なし」

ボート競技は究極のチームスポーツと言われる。シングルスカルを除いて、チームに一人のヒーロー・ヒロインはあり得ない。2人のダブルスカルも5人の舵手つきクォドルプルも息を合わせてより早く進んだ艇に栄冠が輝く。仲間を思いながら両手・両足・全身でリズムを刻み、それぞれが役割を果たした「一艇」に栄冠が輝く。



ポスター原画/高野寛子(3年)作

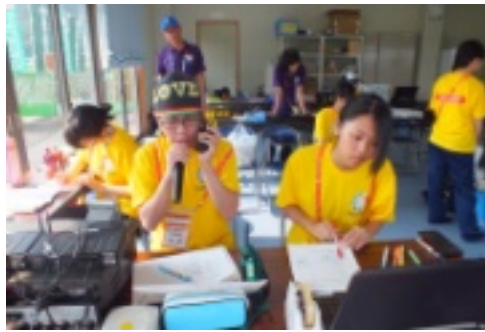


### 島根大会から世界へ羽ばたく二人

▼シングルスカル第1位  
男子 江島凜斉(3年) — 東京都 青井高校  
女子 大門千紗(3年) — 大分県 日田林工高校

シングルスカル男子優勝の江島選手は、5月の全日本軽量級選手権ダブルスカルで高校生クルーとして初優勝を飾った逸材。一方、女子優勝の大門さんも、日本ボート協会が唯一認定する「メダルポテンシャルアスリート」で、東京

五輪のメダルが期待される大器。今大会でも桁違いの強さを発揮した。中学校ではラグビーでも五輪出場をめざすトップアスリートだったが、14歳の時にボート協会に発掘され、早くも高校2年次、昨年5月の全日本軽量級選手権シングルスカルを史上最年少で制した。今大会での優勝を縁に、今後も二人の活躍に注目し、島根からも応援しよう。



放送部の2年生3名は4日間皆勤。全166レースでスタート時の選手紹介→500m通過順位→着順位を放送するハードな活動だったが、交代で務めた1年生の4名も含めて、皆が緊張感を持ちつつも楽しみながら業務をこなした(大会関係者の皆様からも絶賛していただきました)。

→放送部部長の高見さん(2年)は表彰式・閉会式の司会進行も務めた。



↓書道部の妹尾さん(3年)は、4枚の「文部科学大臣賞」の名入れを担当。大臣の公印入りの賞状を前に、失敗が許されない緊張の時間となった。

※ここに紹介するのは、生徒活動のほんの一部です。



1、2年生は7割が参加!

## ボランティア 水面下の活動で輝いた三高生!

大会関係者の一人が3日目、4日目と、「奇跡だ。ここまで何事もなく進んでいるのが奇跡だ。」とつぶやいた。それは、大会を支える地元高校生への感謝の気持ちを表す言葉でもあり、生徒を引率した学校関係者としても、同じ思いだった。大会本番中だけでなく、事前活動から携わった雲南・奥出雲地区5校、出雲養護学校雲南分教室の皆さんに最大の賛辞を贈りたい。



栈橋



開会式受付



記録



総合受付



取材

←島根県選手にインタビューする写真部員。応援に駆け付けた保護者や補助役員生徒にも取材し、「ボート新聞」最終号に掲載する予定です。



サンプリング



記録



ID監察



尾原ダムを管轄する国土交通省斐伊川河川事務所のご厚意で、気温15度の堰堤下部を公開して頂きました。



涼



水泳

中国高校選手権大会

(7/22~24、山口市)

自己ベストを更新

▼吉川航輝さん(2年)

「男子百m平泳ぎ、二百m平泳ぎともに決勝に残ることはできませんでしたが、百m平泳ぎでは、自己ベストを更新することができました。これも、日々の先生方の支えがあったおかげです。3日間応援していただけてありがたうございました。中国高校新人大会では、両種目とも8位入賞を目指して頑張ります。」

陸上

国体予選

(7/17、松江市)

3名が表彰台に

国民体育大会陸上競技島根県予選が7月17日(日)、松江市営陸上競技場で行われ、陸上競技部19名が参加し、このうち3名が表彰台に立った。近年にない好成績に、今後の活躍に期待が膨らんだ。

▼少年共通男子800m

須山泰成(2年) 第3位

▼少年B男子3000m

名原優太(1年) 第2位

▼少年B女子砲丸投

高野彩香(1年) 第2位

1、2年生の今後の活躍も予感させる夏でした

3年生にとっては最後の公演!お疲れさまでした



↑すべてを出し切った達成感に満ちた3年生の笑顔が舞台上で輝いた

1年生にとっては初舞台



▶7月23日(土)・24日(日) 3回公演  
▶会場 チェリヴァホール

演劇

演劇部自主公演

「ストーリー」全国大会を目指しながらも微妙にずれ違っていく演劇部員たちが、ぶつかり合い傷つきながらも、舞台を完成させるために、また心を一つにしていくという等身大の高校生をリアルに演じた。

▼深田愛佳(3年) 部長談

「今回の公演ではのべ300名のお客様に見に来ていただきました。無事に千

秋葉を迎えることができたのは、見に来てくださった方々のおかげです。本当にありがとうございました。今回の公演で3年生は引退になります。同じメンバーで公演をするとは二度とないかもしれませぬ。これからは、1・2年生主体の活動になります。これからも応援よろしくをお願いします。」

※毎年この自主公演は、会場との交渉から企画運営まで、すべてを生徒自身が行っています。

○思い馳せ

まだ見ぬ白夜  
果て遠き

伊藤華恵(2年)

揺れる華  
花火の下の

▼班選出作品(本校関係分)

○カラコロと

最終審査による上位入賞はなかった。

各自が句に込めた思いを発表しながら、8つの班がそれぞれ代表作品を選出した。8作品の中には本校生徒の作品2つも選出されたが、惜しくも

事前提出した「夏」をテーマにした俳句を班ごとに鑑賞

各自が句に込めた思いを発表しながら、8つの班がそれぞれ代表作品を選出した。8作品の中には本校生徒の作品2つも選出されたが、惜しくも

事前提出した「夏」をテーマにした俳句を班ごとに鑑賞

各自が句に込めた思いを発表しながら、8つの班がそれぞれ代表作品を選出した。8作品の中には本校生徒の作品2つも選出されたが、惜しくも

事前提出した「夏」をテーマにした俳句を班ごとに鑑賞

各自が句に込めた思いを発表しながら、8つの班がそれぞれ代表作品を選出した。8作品の中には本校生徒の作品2つも選出されたが、惜しくも

事前提出した「夏」をテーマにした俳句を班ごとに鑑賞

各自が句に込めた思いを発表しながら、8つの班がそれぞれ代表作品を選出した。8作品の中には本校生徒の作品2つも選出されたが、惜しくも

事前提出した「夏」をテーマにした俳句を班ごとに鑑賞

各自が句に込めた思いを発表しながら、8つの班がそれぞれ代表作品を選出した。8作品の中には本校生徒の作品2つも選出されたが、惜しくも

事前提出した「夏」をテーマにした俳句を班ごとに鑑賞

各自が句に込めた思いを発表しながら、8つの班がそれぞれ代表作品を選出した。8作品の中には本校生徒の作品2つも選出されたが、惜しくも

事前提出した「夏」をテーマにした俳句を班ごとに鑑賞

各自が句に込めた思いを発表しながら、8つの班がそれぞれ代表作品を選出した。8作品の中には本校生徒の作品2つも選出されたが、惜しくも

事前提出した「夏」をテーマにした俳句を班ごとに鑑賞

各自が句に込めた思いを発表しながら、8つの班がそれぞれ代表作品を選出した。8作品の中には本校生徒の作品2つも選出されたが、惜しくも

事前提出した「夏」をテーマにした俳句を班ごとに鑑賞

各自が句に込めた思いを発表しながら、8つの班がそれぞれ代表作品を選出した。8作品の中には本校生徒の作品2つも選出されたが、惜しくも

事前提出した「夏」をテーマにした俳句を班ごとに鑑賞

各自が句に込めた思いを発表しながら、8つの班がそれぞれ代表作品を選出した。8作品の中には本校生徒の作品2つも選出されたが、惜しくも

事前提出した「夏」をテーマにした俳句を班ごとに鑑賞

各自が句に込めた思いを発表しながら、8つの班がそれぞれ代表作品を選出した。8作品の中には本校生徒の作品2つも選出されたが、惜しくも

事前提出した「夏」をテーマにした俳句を班ごとに鑑賞

各自が句に込めた思いを発表しながら、8つの班がそれぞれ代表作品を選出した。8作品の中には本校生徒の作品2つも選出されたが、惜しくも

事前提出した「夏」をテーマにした俳句を班ごとに鑑賞

各自が句に込めた思いを発表しながら、8つの班がそれぞれ代表作品を選出した。8作品の中には本校生徒の作品2つも選出されたが、惜しくも

事前提出した「夏」をテーマにした俳句を班ごとに鑑賞

各自が句に込めた思いを発表しながら、8つの班がそれぞれ代表作品を選出した。8作品の中には本校生徒の作品2つも選出されたが、惜しくも

事前提出した「夏」をテーマにした俳句を班ごとに鑑賞

各自が句に込めた思いを発表しながら、8つの班がそれぞれ代表作品を選出した。8作品の中には本校生徒の作品2つも選出されたが、惜しくも

事前提出した「夏」をテーマにした俳句を班ごとに鑑賞



スクープ

内緒で何やっているの?

パソコン同好会

パソコン同好会(2年4名)

が雲市の斐川コア学園から先生をお招きし、何やら頑張っている。顧問の花岡教諭は「本当はまだ公表できない」としつつ、取材のしつこさに屈して口を開いてくれた。「参加者の多い大きな大会の際に、IDカードのバーコードを機械にかざせば一瞬で受付ができ、個別に各種案内も

できるシステム作りに生徒がチャレンジしています」。

吹奏楽

全日本吹奏楽コンクール県大会

(8/7、グラントワ)



益田市のグラントワで開催された第57回全日本吹奏楽コンクール島根県大会の高校Aの部に、部員38名で臨んだ。課題曲「マーチ・スカイブルー・ドリーム」(作曲/矢藤学)と、自由曲「斐伊川に流るるクシナダ姫の涙」(作曲/樽屋雅徳)の2曲を披露した本

文芸

高文連文芸部門夏季学習会

俳句コンクール

テーマは「夏」



(8/10~11、江津少年自然の家)

校は上位入賞こそならなかったものの、この一年間の練習の成果を出し切り、達成感を感じさせる演奏を披露してくれた。コンクール直前は、野球の県大会での応援演奏に加え、

間に合えば、本校や松江市のくにびきメッセを会場とする

10月の総合学科全国大会の受付での活用が期待される。

全国高校総体ポルト競技の開会式(会場アスパル)での歓迎演奏も加わって心身ともにハードな日々が続いた。ここで一息ついて、次は3年生引退の花道ともなる三高祭での趣向を凝らしたステージを楽しみにしたい。

夏休み中は部活動の大会だけでなく、各種団体の研修・会合・合宿、ボランティア活動と生徒も大忙しです。

主催 島根県高等学校家庭クラブ連盟  
島根県教育委員会  
日時 8月12日(金)  
会場 あすてらす(JR大田市駅前)

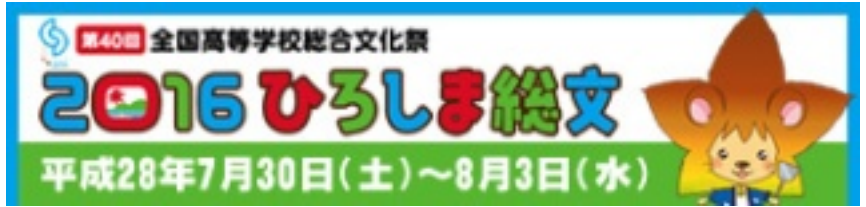
家庭クラブ

「子どものかかわり方を学び、  
保育実習や地域活動で生かそう」

島根県家庭クラブ連盟指導者養成講座

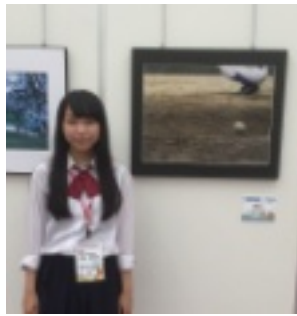
家庭クラブの標記講座が開催され、本校からは1年生の男子2名が参加した。開会式後の全体研修「心をほぐすレクリエーション」と生徒交流会に続き、3つに分かれた午後の分科会では本校の二人はB分科会で「ペープサートであ

そーぼー!」をテーマに、幼稚園の先生方から園児が大好きな「ペープサート(紙人形劇)」の作り方のコツや演じる際の見せ方を体験的に学んだ。今後は一般生徒に伝達講習し、三刀屋保育所でのボランティア活動にも生かしてもらいたい。



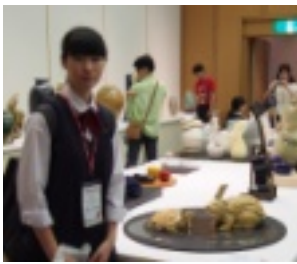
第40回全国高等学校総合文化祭(広島大会)  
部門ごとに趣向を凝らした生徒交流会を実施

写真



(広島国際会議場)  
メイン会場では各都道府県からの出品作約300点が一堂に会し、日韓交流事業による韓国代表生徒の作品も並び、見応えある展示を堪能した。講演会や交流会でも刺激を受け、写真の奥深さを再確認する機会になったようだ。広島県内3コースに分かれての撮影会では、島根県代表

美術



(広島県立美術館他)  
各都道府県から代表として推薦された「絵画・版画・彫刻・デザイン・工芸・映像」など約400点の作品が展示

自作品の前で門脇宥紀菜さん(3年)

今年で40回目を迎えた全国高等学校総合文化祭は毎年5日間の日程で総合開会式・パレードのほか19の規定部門と、開催県が独自に設ける祭は毎年5日間の日程で総合開会式・パレードのほかに19の規定部門と、開催県が独自に設ける

の一人として参加した小池ななみさん(3年)は尾道コースに参加し、全国の写真仲間との技術と感性も参考にして風景写真を撮り込んだ。一人として参加した小池ななみさん(3年)は尾道コースに参加し、全国の写真仲間との技術と感性も参考にして風景写真を撮り込んだ。

書道



黒目さんの班のHEY輪!

(広島市南区民俗文化センター他)  
全国から出品された約300点と地元広島県の高橋生による企画展が来場者の目を楽

また、広島県立広島産業会館での生徒交流会では、全国から参加した314名が64グループに分かれ、「私にとつての平和」をテーマに、各自の思いを伝える言葉を大竹和紙(縦62cm×横98cm)に書き上げた。本校から参加した黒目麻友さん(3年)の班は、平和を「HEY輪!」と表現してまとめあげた(写真)。

朝日・渡部の完封リレー(2回戦)

毎回得点の5回コールド勝ち



ご声援ありがとうございました

<2回戦> 7/16、松江市営野球場

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
江津工業	0	0	0	0	0					0
三刀屋	4	4	1	2	×					11

<3回戦> 7/19、松江市営野球場

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
浜田	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3
三刀屋	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2

初戦を完勝して臨んだ3回戦の相手は試合巧者の浜田高校。序盤には好守を誇る三刀屋がエラーで出塁を許したものの、エースの朝日が連続三振を奪ってピンチを切り抜ける場面も。試合展開は朝日が粘りの投球を続け、味方の反撃を待つ三刀屋のパターンだったが、6回表に1年生バッターのホームランで浜田が3点を先制。三刀屋もその裏に2点を返して勢いに乗るかに見えたが、その後は浜田の継投策の前にチャンスは抜けられず、準々決勝進出はならなかった。

野球



第98回全国高等学校野球選手権島根大会

勝利分けた6回の攻防

浜田の一発に泣く(3回戦)



美術

第25回全国高等学校漫画選手権大会

(8/6、7、高知市文化プラザかるぼーと)

# マンガ甲子園 見事決勝進出(第1競技突破15校)



全国から315校がエントリーした中から、国内31校、韓国・台湾の代表各一校が出場した「マンガ甲子園」本戦で、初出場ながら三刀屋は第一競技を突破。市民投票による敗者復活戦で勝ち上がった5校を含む計20校が2日目の決勝に駒を進めた。

初日の第1競技のテーマは「今日の会場で発表され、事前

に示された5つの候補の中から、「♪(8分音符)」に決定すると、参加者からどよめきが上がると同時に、午後4時までの5時間半の制限時間でB2判パネルに向かって漫画を描き始めた。三刀屋は金築由依さん(3年)がアイデアを出した「殿さまの丁髷(ちよんまげ)」を8分音符のようにユーモラスに描いた

作品(写真)で決勝進出を果たした。

2日目の決勝のテーマは、2か月前に話題となったばかりの「新元素発見」。予期せぬテーマに入賞はならなかったが、エントリー4回目で本戦に初出場し、さらには決勝まで駒を進めた健闘に拍手を贈りたい。

▼三刀屋高校(写真右から)  
金築由依(3年)  
茂富 楓(3年)  
高野寛子(3年)

—— 原点回帰 ——  
美しくなったから  
使いやすくなったのではない  
使いやすさを求めたら  
美しくなった

## 高雲三 如己愛人

現代の刀匠で最も注目されるのが、平成26年に刀剣界最高の正宗賞に輝いた河内國平さん(奈良県在住)らしい。正宗賞の太刀・刀の部門はしばらく「該当なし」で、河内さんの受賞は18年ぶり。中世の古刀の地紋「乱れ映り」の再現が評価

# 斐伊川 今昔物語 第22回

錦織良成監督映画「たたら侍」を勝手に応援するシリーズ

# 「鉄づくり千年が生んだ物語」昭和の一頁

## 忠善の作刀

# 初代忠善没後60年

島根を代表する昭和の刀匠

[種別]	太刀(たち)
[作者]	初代忠善 (川島善左衛門)
[年代]	昭和15年(1940)
[刃長]	95.6cm
[反り]	3.0cm

明治25年(1892年) ~ 昭和31年(1956年)



昭和15年(1940年)、菅公(菅原道真公)を祀る松江市宍道町の菅原梅ノ木天神(拙宅)に、写真の太刀が仁多郡の櫻井三郎右衛門氏や糸原武太郎氏(鎌上鉄道設立者)等の名で奉納された。たたら場周辺では耕作・運搬用の役牛を大切にしたこと、近世たたら製鉄の総合プロデューサー的存在の「鉄師」を務めた櫻井氏や糸原氏は、牛を愛した天神さんへの信仰も厚かったためであり、当

時の信徒総代櫻井家から奉納された品としては、幕末の嘉永7年の菅公像が最も古い▼ところで、前述の奉納太刀の制作者、初代川島忠善の名をご存じだろうか。鍛冶職を父から継いだ初代忠善(本名川島善左衛門、写真)は「雲州忠善」を創業し、奥出雲地方で長く途絶えていた日本刀の制作を始めた。昭和6年の満州事変勃発頃から軍刀を中心に需要が高まり、その前年の日本刀大共進会に島根県からただ一人出品して入選し、昭和15年には刀剣博覧会の

審査員に任命されている。冒頭紹介した太刀はこの年に奉納されたもので、忠善作としては最長の品と思われる。門弟は西日本を中心に20余名を数えた▼戦後はサンフランシスコ平和条約による主権回復によって作刀活動を再開した。講和記念刀を製作する榮譽も得た。昭和31年に「日本美術刀剣保存協会」が開催した第1回作刀技術発表会に出品して優秀賞を得たが、その翌年に亡くなった。没後60年、たたら関連遺産が日本遺産に登録され、初代忠善も幽世で喜んでいることだろう。子の2代目忠善(本名川島真、平成元年没)も昭和の名工として全国に知られ、亡くなる直前には伊勢神宮へ銚子を奉納する榮譽を得た▼なお、不足する日本刀の

原料「玉鋼」を生産確保するために、前述の「日本美術刀剣保存協会」が昭和51年、奥出雲町大呂に復元したのが「日刀保たたら」だ▼かつて奥出雲町内には30軒以上の鍛冶屋があったそうだが、現在残るのは2軒。このうち、三成で「雲州忠善刀物」を継ぐのが初代忠善の子、久忠氏だ。作刀の経験もあるが、甥の俊春氏(2代忠善の子)とともに地域の人が日常生活で使う刃物を作り続ける。「自分のつくった包丁の刃が、これまで以上に研げないほど使い込まれたものを見た時が何より嬉しい」と久忠氏は語る。出雲大社の平成の大遷宮の際は、三百年以上昔の遷宮の際と同じ「神鋏」の制作を依頼され奉納した。現代出雲国のたたら侍だ。

されてのことだった▼今では本来の目的で制作されることのない日本刀だが、河内さんは日本刀の使用原点に立った焼き入れて成功したという。芸術的刃紋を美しく見せるというよりは、武器本来の強靱さを重視した焼き入れて再現に繋がった▼ヒントになったのが、著名な包丁鍛冶の言葉だった。「美しくなったから使いやすくなったのではない。使いやすさを求めたら美しくなった」▼上述の二代目川島忠善も、「とかく華美になりすぎの感がある。あくまでも日本刀であるから、使用する事は無くても実用的である事を忘れてはいけない。折れず曲がらず、よく切れる事を念頭において鍛刀せねばならない」との言葉を遺した。▼いずれもモノ作りの原点に触れる言葉であり、すべての仕事、働く姿勢、そして人の生き方の道標となるような言葉ではないだろうか。行き詰まった時、原点・基本に立ち返ることの大切さを伝えてくれる言葉とも感じた▼普段とは違った体験や思いに触れる機会も多かった夏休み。非日常的な体験を経て、日常生活の中で自分が取り組んでいる事の意味を、原点に返って今一度問い直してみよう。そして今年の学園祭のテーマは「輝(ひかれ)」。一人ひとりが繋がって、研ぎ直した輝きを放つてくれることだろう。(編集長記)



# 三高新時代への胎動

## 地域とともに

### シリーズ 第24回 夏のボランティア活動2016!

1学期終業式後から8月前半にかけては、雲南市内の各種団体からボランティア活動のお誘いがあり、1・2年生を中心に個人や部活動単位で心地よい汗を流した。ボランティアとは、交流を深める機会であることを再認識する夏となった。

#### 主催/三刀屋地区まちづくり協議会(地域自主組織)

三刀屋小学校4年生を対象とするサマーキャンプが雲南市大東町上久野の「かみくの桃源郷」で開かれ、本校の5名(1年3名、2年2名)がボランティアスタッフとして2泊3日と一緒に寝泊まりして活動を支えた。

3

サマーキャンプ2016

in 桃源郷

8/1~3



4

ふれあいまつり

7/31

三刀屋町古城のしゃぼんだま工房パレットで恒例の「ふれあいまつり」が行われ、本校3年生3名がボランティアで運営のお手伝いをした。「ふれあいまつり」は子どもからお年寄りまで幅広い世代の交流と、障がいへの理解と、偏見のない地域社会を目指して、雲南広域福祉会が主催して毎年この時期に行われている。今年もステージイベントやショップ、バザー、クイズラリー、模擬店、体験コーナー、展示コーナーなど盛りだくさんの楽しい催しで賑わった。

参加者の一人の加本さん(3年)は総合受付を担当し、500名を超える来場者にクイズラリーの案内をしたり、抽選券を配布したりと暑い中でも大忙し。「暑い中たくさんの人に『ふれあいまつり』に参加してもらい、また、クイズラリーにもたくさん来ていただいて、大変うれしく思いました。小さいお子さんにも喜んでもらってボランティアを通して自分自身も成長できたと思います。また、機会があれば、参加したいです。」(加本さん)

5

(夏休み中は中断していた三刀屋保育所でのボランティア活動を、学園祭後から再開する予定です)

#### 例えば 男子バスケットボール部は…

1

スペシャルオリンピックス島根

7/17

皆さんは「スペシャルオリンピックス」という競技会をご存知ですか?これは、知的障がいのあるアスリートたちのオリンピックで、日頃のトレーニングの成果を競い合い、練習成果を発揮する大舞台です。

7月17日(日)に三刀屋文化体育館アスパルで行われた「スペシャルオリンピックス日本・島根 夏季地区大会」の総合開会式とバスケットボール競技で、本校男子



バスケットボール部員が、ボランティアとして大会をサポートしました(写真左)。

2

第43回日独スポーツ少年団同時交流事業

7/30

ターゲットパス・10mドリブル・スポットショットなどの個人技能競技で競われました。



「青少年団同時交流事業」によるドイツ団一行11名

(内通訳1名)が7月26日から4泊5日の日程で雲南市を訪れ、民泊しながら文化・スポーツ交流で親善を深めました。

活動の拠点となった三刀屋文化体育館アスパルでは、雲南市スポーツ少年団の依頼を受け、普段から練習で同体育館を使用すること多い本校男子バスケットボール部と卓球部がゲーム形式でドイツの同世代の若者と交流しました。



# 2学期へ “Attention Go!”

Attention Go は  
ボート競技のスタートの合図です

日	曜	学校行事等	部活等
22	月	1・2年第2回サマーボート	
23	火	第1回オープンキャンパス	
24	水	学園祭準備(午後)	
25	木	学園祭準備(午後) 人権・同和教育SHR 全国高P連千葉大会(～26)	
26	金	学園祭準備(午後)	
27	土	出校日(月曜日の授業) 学園祭準備(午後)	
28	日	1・2年全統記述(希望者)	
29	月	8/27の代休日	
30	火	学園祭準備(午後)	
31	水	学園祭準備(全日)	

# 8月

日	曜	学校行事等	部活等
1	木	全日学園祭準備	
2	金	文化祭一日目	
3	土	文化祭二日目	
4	日	体育祭	
5	月	9/3の代休日 就職応募・推薦開始日	
6	火	9/4の代休日	
7	水	学園祭片付け 3年学年集会 身だしなみ指導	
8	木	センター試験出願説明会	
9	金	3年全統小論文模試	卓球～11
10	土	3年全統記述模試・看護医療模試	
11	日		
12	月	街頭指導～9/16	後期生徒会役員選挙告示
13	火	交通安全講話	
14	水	6限授業 3年小論文模試	
15	木		
16	金	就職選考解禁	野球～18
17	土	学校開放 3年進駿M模試・看護医療模試	ソフトボール・ソフトテニス～18 陸上～19
18	日	3年進駿M模試	
19	月	敬老の日	演劇～20
20	火	試験発表 1・2年身だしなみ指導	後期生徒会役員立会演説会・選挙
21	水		
22	木	秋分の日	
23	金	2年保護者がイッソ	野球～25
24	土		
25	日		
26	月		
27	火	中間試験1日目	
28	水	中間試験2日目 大学等説明会	
29	木	10/1の代休日	
30	金	中間試験3日目	
10/1	土	出校日 中間試験最終日	

# 9月

元氣沸騰中!  
アドレナリン全開!

# 99.3%

充実の三高生活を支える高い出席率

全校生徒の7割が皆勤!!

1年 95人/131人中  
2年 88人/136人中  
3年 103人/141人中

1学期も良好な出席状況でした

## 三高生の元氣をおすそ分けします

三刀屋高等学校学園祭

# 三高祭

9/2(金)

文化祭1日目  
アスパル

9/3(土)

文化祭2日目  
三刀屋高校

9/4(日)


体育祭  
三刀屋高校

WELCOME

ひかれ  
**輝** ～それぞれの勝利を掴むために～

詳細は後日、三高ホームページに掲載します

## 保護者の皆様へ (学園祭前後の動きについて)

- 8/21 はPTA環境美化ボランティア活動への  
ご協力ありがとうございました
- 9/3 文化祭2日目のPTA模擬店への  
ご協力をお願いします 
- 3日間の三高祭では、雲南市の象徴でもある「鉄」と「青銅」の風鈴を飾って賑わいを創出したいと思います。ご自宅の風鈴を、学園祭の期間中お貸しいただきますようお願いいたします。(お子様を通じてお届けください。)
- 9/4 の体育祭が雨天中止になった場合を含めて、体育祭前後の出校日・代休日については、後日あらためて保護者宛て文書でご連絡いたします。なお、今週末の27日(土)は出校日となります。

# さんこう 三高92年物語

## 第27回 校歌制定(昭和34年)

作詞者/土岐善麿(とき・ぜんまる)  
明治18年6月8日~昭和55年4月15日



←善麿自筆の校歌原稿

戦前の旧制中学時代は男子校であり、当時の校歌の中の「我が雲南の健男児」という歌詞が男女共学時代にはふさわしくないと、初のOB校長となった飯塚一雄校長(三刀屋中学1期卒、松江市在住で来月で満105歳)の時代に、開校35周年式典に

土岐善麿を中心に紹介する。土岐善麿は早稲田大学英文科卒業後、読売新聞記者となつて1910年(明治43年)に第一歌集『AKIWAR』を發表した。この歌集はローマ字綴りの一首三行書きという異色のもので、東京朝日新聞にいた石川啄木が批評を書いている。同年啄木も第一歌集『一握の砂』を出し、読売新聞は啄木と善麿を歌壇のホープとして紹介した。これを機に善麿は啄木と親交を深め、二人で生活派短歌の基礎を築いた功績は大きい。1912年(明治45年)に啄木が貧困と病で没すると、善

麿は実家の東京西浅草・等光寺で葬儀を出し、遺族を助けて『啄木遺稿』『啄木全集』を編纂・刊行し、啄木を世に出すことに努めた。▼善麿自身は読売新聞に勤務しながら歌作を続け、社会部長だった1917年(大正6年)には、東京遷都50年記念博覧会協賛事業として東京・京都間の「東海道駅伝」を企画して成功を収めた。これがスポーツ競技としての「駅伝」の初めと言われる▼戦後再び歌作に励み、1946年(昭和21年)には新憲法施行記念国歌『われらの日本』を作詞した。前述の第一歌集でローマ字の歌集を發表

したことから、ローマ字運動やエスペラント語の普及にも深く関わった。また言語審議会会長を歴任し、現代国語の基礎の確立に尽くした。戦後の新字・新仮名導入にも大きな役割を果たした▼新制松江高校が、昭和28年に制定した新校歌のことから、三刀屋高校でも善麿の名が候補にあがった。島根県東京事務所(現島根県庁)の幹事で徳川夢声(島根県出身、無声映画時代の活動弁士、ラジオ・テレビ草創期の元祖マルチタレント)を通じて善麿への依頼が実現した。つくづく、すごい方に依頼したものだと思嘆する。

四季ごとのさまざまな繰り返しの中で、いつも通りにやって来た夏の花火のシーンに、自然と今年もあの詩を思い起こしました。代表作『長岡の花火』を残した裸の大將こと山下清画伯が絵葉書に書いた言葉です▼「世界中の爆弾を花火に変えて空に打ち上げたら、世界から戦争がなくなるのにな」▼幸せの原点(前提)は、戦争のない平和な世界ではないでしょうか。コラム欄で紹介した河内國平や忠善の言葉にも触れつつ、何気ない生活の原点を見つめ直す夏となりました。

(編集長記)

### 残暑お見舞い申し上げます

平成28年8月  
三刀屋高等学校  
教職員一同

←正門前の坂の上で紅く咲く夾竹桃

※中学3年生向けの「学校案内2017」を發行しました(無料)。お問い合わせは本校総務部までお願いします。ホームページにも掲載しています。(WEB用低解像度のため写真はやや不鮮明です)

夢ふくらむ  
明日の自分に会える

忘れかけていた  
昔の自分に会える

午後  
**10/9(日)**

本日(8/23)  
**三高オープンキャンパス**

雲南会/日登支部の皆様  
雲南会の日登支部の総会が7月23日に本校で開催され、あわせて玄関前の「蒼雲館」も久しぶりにご見学いただきました。

### BSS山陰放送(ラジオ) 9/1(木)

## お知らせ「嗚呼懐かしき我が校歌」

どなたか存じませんが、**リンクエストありがとうございます**

**ラジオでお聞き下さい**

毎週木曜日の15時20分頃からの標記ラジオ番組は、リスナーからのリンクエストで校歌が紹介される。これまでに山陰両県の延べ400回を超える校歌が紹介され、三刀屋高校は2005年以降の放送らしい。母校の?校歌を聞きたいとリンクエストしていただいたこと自体も、学校関係者にとっては感謝感激!!

これを機会に、昭和34年に制定された現在の校歌について、本頁のシリーズ「三高92年物語」で皆さんに復習?していただくことにした。

讀  
後  
記

http://三高情報.怒涛のドット.満載「蒼雲」